資料５

各部部長及び
若手アカデミー報告資料

第一部報告
第191回総会
2024年４月22日

第一部役員
部　長：吉田　文
副部長：大久保規子
幹　事：小田中直樹
幹　事：西山慶彦

第一部の組織
分野別委員会（10）・分科会（54）

分野別委員会	分科会数
言語・文学委員会	1
哲学委員会	4
心理学・教育学委員会	4
社会学委員会	6
史学委員会	9
地域研究委員会	6
法学委員会	10
政治学委員会	5
経済学委員会	6
経営学委員会	2
第一部直接統括	1

※第25期の第一部における分科会数は79。

第一部の運営体制

- 部会：年３回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：部会の間に１～２回、必要に応じて開催（部役員+分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会

  国際協力分科会

第26期の方針（案）

① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。

② 改正科学技術・イノベーション基本法、第６期科学技術・イノベーション基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。

③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、部の特性を生かしながら積極的に参画します。

④ 部における分野別委員会・分科会の体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

2023年10月総会以降の活動

- 「意思の表出」に関わる部及び分野別委員会による査読等の実行
- 第26期の期首における分科会の立ち上げ：分科会活動の見直し、必要性の検討
- 多彩なシンポジウム等の開催（2023年10月～2024年３月に公開シンポジウムを５件開催）

公開シンポジウム等（2023年10月～2024年３月分）

- 10/9　公開シンポジウム「災禍の時代の社会学」（社会学委員会、社会学委員会社会理論分科会）
- 10/28　公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(７)）－「歴史総合」の授業と教員養成を検討する」（史学委員会、史学委員会中高大歴史教育に関する分科会）
- 11/25　公開シンポジウム「AI時代における哲学・美学・倫理学・宗教学」（哲学委員会）

公開シンポジウム等（2023年10月～2024年３月分）

- 3/9 公開シンポジウム「なぜ、社会的孤立は問題なのか？」（社会学委員会）
- 3/9 公開シンポジウム「大学における教員養成の未来－「グランドデザイン」をめぐって」（心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会）

第二部活動報告

令和５（2023）年10月～令和６（2024）年３月

第二部役員
部　長：神田　玲子
副部長：尾崎　紀夫
幹　事：奥野　恭史
幹　事：堀　　正敏

組織及び活動の概要

第二部は現会員69名、下記の９委員会※1のもとに80分科会（R06.03.31時点）が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。部会は、総会時ならびにメール審議形式で開催している。役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。

分野別委員会	委員長	分科会数
部附置分科会	※２	1
基礎生物学委員会	小林　武彦	13
統合生物学委員会	北島　薫	7
農学委員会	中嶋　康博	12
食料科学委員会	髙山 弘太郎	10
基礎医学委員会	五十嵐 和彦	8
臨床医学委員会	山本　晴子	13
健康・生活科学委員会	西村　ユミ	7
歯学委員会	村上　伸也	3
薬学委員会	奥田　真弘	6

※１　環境学委員会は分野別委員会ではあるが、融合領域分野として第一部～第三部の会員から構成されているため、９委員会には含めていない。
※２　第二部が直接統括する分野別委員会合同分科会として以下を設置。
　　〇生命科学系学術雑誌問題検討分科会（第364回幹事会承認 令和６年３月25日）
※３　第25期の分科会数は、部附置分科会（３）及び小委員会（２）を含め、92であった。

第二部会、第二部拡大役員会の開催

◇第二部部会：第１回（令和５年10月３日）
議題：役員の選出、分野別委員会の構成や分科会の設置について、連携会員の参加について、など

◇第二部拡大役員会:第１回（令和６年２月17日）
（二部役員＋分野別委員会委員長）
議題：第26期分科会設置状況について、第二部附置分科会設置の提案について、夏季部会について、など

◇第二部部会：第２回（メール審議）
（掲示板意見交換:令和６年３月５～12日、メール議決:令和６年３月13～15日）
議題：第二部附置分科会設置及び委員名簿の提案について

第二部が直接統括する分科会

◆ 第二部生命科学系学術雑誌問題検討分科会

● 設置目的：我が国には国際的にインパクトの高い生命科学系分野の学術雑誌が存在せず、研究成果の発表は外国の商業出版社に大きく依存している。この状況は、我が国の研究成果の国際的な認知度と競争力を著しく損なっている。このような状況を改善するために、生命科学系分野の学術誌の強化方法と、我が国の研究成果を如何に世界に発信・展開していくかについて、第二部を中心に、第一部、第三部の会員を交えて、全体で議論する。

● 審議事項：
１． 生命科学系分野学術誌特有の問題点の整理
２． １の改善に向けた方策の検討
３． 成果発信のための統一したプラットフォームの設置等の検討

関連学協会との連携

●第25期から第二部が連携している学協会連合は以下の通り。

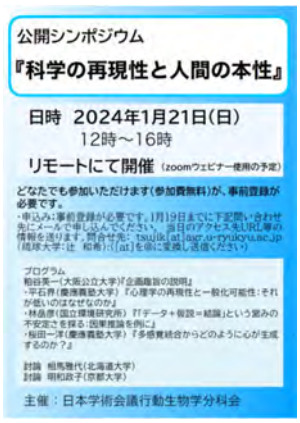
生物科学学会連合、日本光生物学協会、一般社団法人日本生物教育学会、男女共同参画学協会連絡会、日本脳科学関連学会連合、自然史学会連合、一般社団法人日本農学会、農業経済学関連学会協議会、公益財団法人農学会、日本農学アカデミー、日本医学会連合、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、日本スポーツ体育学術連合、生活科学コンソーシアム、一般社団法人日本看護系学会協議会、一般社団法人日本歯科医学会連合、NPO法人日本口腔科学会、日本薬学会、水産・海洋科学研究連絡協議会

●第26期では、こうした学協会連合体と連携して、公開シンポジウムの開催等を行っていく。

シンポジウム等（開催済）（令和５年10月～令和６年３月）

第二部においては、令和５年10月から令和６年３月の期間中、10件の公開シンポジウムを開催した。

開催日	名　称	開催場所	委員会・分科会
令和５年 11月11日（土）	公開シンポジウム「東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題」	東京大学弥生講堂 （ハイブリッド開催）	食料科学委員会、農学委員会、食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会
11月26日（日）	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（２）」	オンライン開催	基礎生物学委員会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
12月２日（土）	公開シンポジウム「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」	オンライン開催	農学委員会、農学委員会植物保護科学分科会
12月９日（土）	公開シンポジウム「法獣医学を解く」	オンライン開催	食料科学委員会獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
12月15日（金）	公開シンポジウム市民公開講座「水産・海洋分野におけるAIの役割と課題」	オンライン開催	食料科学委員会、食料科学委員会水産学分科会
令和６年 １月12日（金）	公開シンポジウム「AIが拓く創薬と医療の未来」	日本学術会議講堂	薬学委員会生物系薬学分科会
１月21日（日）	公開シンポジウム「科学の再現性と人間の本性」	オンライン開催	統合生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会合同行動生物学分科会
２月３日（土）	公開シンポジウム「食料自給率の動向と見通し－食料・農業・農村基本法改正に向けて」	東京大学農学部弥生講堂 （ハイブリッド開催）	農学委員会・食料科学委員会
３月15日（金）	公開シンポジウム「第６回 食品栄養と機能性に関する日本国際食品科学工学連合、日本学術会議、日本栄養・食糧学会合同ウェビナー」	オンライン開催	食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同IUNS分科会
３月30日（土）	公開シンポジウム「分野を越え海を越える昆虫科学」	仙台国際センター大ホール （ハイブリッド開催）	農学委員会応用昆虫学分科会



今後開催予定のシンポジウム等

開催日	名　称	開催場所	委員会･分科会
令和６年 ４月27日（土）	公開シンポジウム「『紅麹サプリ食品事故』から考える～サプリメント、機能性表示食品とは？～」	オンライン開催	食料科学委員会･基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会･農学委員会合同食の安全分科会
５月11日（土）	公開シンポジウム「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？」	オンライン開催	食料科学委員会畜産学分科会
５月25日（土）	公開シンポジウム「食糧科学と機能性に関する日本栄養･食糧学会、韓国食品栄養科学会、日本学術会議合同国際シンポジウム」（※第366回幹事会にて承認予定）	中村学園大学 （ハイブリッド開催）	食料科学委員会･農学委員会･健康･生活科学委員会合同 IUNS分科会

シンポジウム詳細： https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/365-s-0427.html
シンポジウム事務局：scj-tox@vetmed.hokudai.ac.jp

17:30 開会の挨拶　堀　正敏(日本学術会議第二部会員、東京大学･教授)
17:35「機能性食品のあり方：特定保健用食品から機能性表示食品へ」
　熊谷　日登美(日本学術会議連携会員、日本大学･教授)
17:55「薬品的に用いられる栄養補助食品の自社管理の限界」
　有路　昌彦(日本学術会議連携会員、近畿大学･教授)
18:05「自然由来の物質と健康被害にある背景」
　畝山　智香子氏(立命館大学･客員研究員)
18:25「メディアからの問題提起」
　大村　美香氏(朝日新聞くらし報道部記者)
18:40「リスク管理とコミュニケーションの方向性」
　西澤　真理子(日本学術会議連携会員、株式会社リテラジャパン代表取締役)
18:50 総合討論、パネル議論と参加者との質疑応答
　<モデレーター>西澤　真理子
　<パネリスト>登壇者および（株)ファンケル 機能性食品研究所所長　寺本祐之氏
19:30 閉会の挨拶　石塚　真由美(日本学術会議連携会員、北海道大学･教授)

参加URL
https://zoom.us/j/98465698799
（事前登録不要）

第三部報告

令和5年10月～令和6年3月

第三部部会　10/3（前回総会中）
第三部拡大役員会　10/27,　*11/27,　12/22,　1/25,　*2/29,　＊3/25
＊分野別委員会委員長も参加

部長　沖　大幹
副部長　北川　尚美
幹事　奥村　幸子
幹事　関谷　毅

1－1．第三部における分野別委員会

	委員長	副委員長
環境学委員会＊	森口　祐一	池邊　このみ
数理科学委員会	齋藤　政彦	伊藤　由佳理
物理学委員会	腰原　伸也	櫻井　博儀
地球惑星科学委員会	佐竹　健治	小口　高
情報学委員会	下條　真司	高田　広章
化学委員会	岡本　裕巳	三浦　佳子
総合工学委員会	玉田　薫	宮崎　恵子
機械工学委員会	高田　保之	佐田　豊
電気電子工学委員会	三瓶　政一	大橋　弘美
土木工学･建築学委員会	竹内　徹	佐々木　葉
材料工学委員会	岸本　康夫	尾﨑　由紀子

＊第一部～第三部合同

１－２. 第三部附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
委員長　　玉田　薫
副委員長　　堀　利栄

参考　第三部も深く関わる課題別委員会

「防災減災学術連携委員会」

「フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会」

２. 令和5年10月～令和6年3月の活動(1/3)

拡大役員会での議論（10/27, *11/27, 12/22, 1/25, *2/29, * 3/25
＊分野別委員会委員長も参加）

○第26期・第三部活動方針に関する確認及び検討
- 第25期からの申し送り事項
- 分野別委員会の活動状況の共有
- 会員間の情報共有の促進

○第三部附置分科会の設置に関する検討
→１－２. 第三部附置分科会

○分野別委員会の設置状況等に関する確認
→分野別委員会の下に57の分科会※が設置され、活動を開始（参考資料A）
※第25期中に設置が認められた分科会を含めた総数は74

○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方」に関する意見交換

○2023年度第三部予算執行状況の確認及び2024年度予算執行方針の検討
→2023年度予算執行方針（11月）と2023年度予算執行に関するお願い（12月）の発出

2. 令和5年10月～令和6年3月の活動(2/3)

拡大役員会での議論（10/27, *11/27, 12/22, 1/25, *2/29, * 3/25
＊分野別委員会委員長も参加）

○第三部会員の専門分野等に関する調査及び情報共有システムに関する検討

→日本学術会議全体ならびに委員会・分科会での分野横断的な活動を支援する目的で、以下①②についてBOXを活用した情報共有を実施

①会員の専門分野、希望する活動や関心のある分野のキーワードを調査し共有
②日本学術会議のホームページに掲載されている会員、連携会員の委員会所属情報等を一覧化し共有
・第三部会員の会員・連携会員歴（第24期以降）
・第三部会員が所属する委員会、分科会所属情報

○公開シンポジウムの開催

→参考資料B

○理学・工学系学協会連絡協議会の議題等に関する検討

→参考資料C

2. 令和5年10月～令和6年3月の活動(3/3)

拡大役員会での議論（10/27, *11/27, 12/22, 1/25, *2/29, * 3/25
＊分野別委員会委員長も参加）

○第三部夏季部会の企画等に関する検討、意見交換

→日程（8月1～2日）、開催地（大阪）、公開シンポジウム

公開シンポジウム（案）　／　～研究者になって世界を駆け巡ろう～
主催：日本学術会議第三部会、日本学術会議近畿地区会議、大阪大学 日時：令和6年8月1日（木）13:00～17:30 場所：大阪大学中之島センター10階（佐治敬三メモリアルホール）・ハイブリッド開催 開催趣旨： 今年の公開シンポジウムでは、世界の課題に立ち向かう研究者たちの情熱と取り組みを紹介する。気候変動、エネルギー枯渇、貧困など、世界が直面している問題に対して、世界を駆け巡りこの問題解決に取り組んでいる研究者を招き、研究者たちの想いと成果を共有し、次代を担う学生たちにその魅力と経験を伝えることを目的とする。

3. 今後の活動

○第三部夏季部会の実施

○会員・連携会員が参画する委員会・分科会の精査と活動の支援

○「アクションプラン」ならびに「日本学術会議の在り方」に関する意見交換

（参考資料A）分野別委員会下の分科会設置状況（1／2）

○分野別委員会下の分科会（第25期中に設置が認められた分科会を除く）
（委員会の後の（）内は分科会数、*は複数委員会にまたがる合同分科会）

- 環境学委員会(5)：環境リスク分科会、環境思想・環境教育分科会、環境政策・環境計画分科会、環境科学・環境工学分科会、自然環境分科会
- 数理科学委員会(3)：数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会
- 物理学委員会(4)：天文学・宇宙物理学分科会、物性物理学・一般物理学分科会、素粒子物理学・原子核物理学分科会、物理教育分科会
- 地球惑星科学委員会(4)：地球・惑星圏分科会、地球・人間圏分科会、地球惑星科学社会貢献分科会、地球惑星科学次世代育成分科会
- 情報学委員会(4)：ITの生む諸課題検討分科会、教育データ利活用分科会*、サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会、情報学教育分科会
- 化学委員会(9)：化学企画分科会、物理化学・生物物理化学分科会、無機化学分科会、有機化学分科会、材料化学・分析化学分科会、結晶学分科会*、触媒化学・化学工学分科会*、高分子化学分科会、生体関連化学分科会

（参考資料A）分野別委員会下の分科会設置状況(2/2)

〇分野別委員会下の分科会（続く）

- 総合工学委員会(8)：総合工学企画分科会、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会*、原子力安全に関する分科会、科学的知見の創出に資する可視化分科会、未来社会と応用物理分科会、エネルギーと科学技術に関する分科会、フロンティア人工物分科会*、計算科学シミュレーションと工学設計分科会*
- 機械工学委員会(5)：機械工学企画分科会、機械工学の将来展望分科会、ロボット学分科会、生産科学分科会、生体医工学分科会*
- 電気電子工学委員会(3)：制御・パワー工学分科会、デバイス・電子機器工学分科会、通信・電子システム分科会
- 土木工学・建築学委員会(7)：IRDR分科会、気候変動と国土の未来分科会、インフラレジリエンス分科会、複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会、カーボンニュートラル都市分科会*、子どもの成育環境分科会*、デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
- 材料工学委員会(5)：バイオマテリアル分科会*、サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会*、材料工学中長期研究戦略分科会、新材料デザイン検討分科会、将来展開分科会*

（参考資料B）公開シンポジウム開催(1/2)

「第10回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム(JCOSSAR2023)」（R5.10.25～R5.10.27）
土木工学・建築学委員会
【日本学術会議講堂及び会議室（5-A、5-C、6-A）】

「第13回計算力学シンポジウム」（R5.12.4）
総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
【日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）】

「「データサイエンス国際シンポジウム 2023」-アジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築 -International Symposium on Data Science (DSWS-2023) -Building an Open-Data Collaborative Network in the Asia-Oceania Area -」（R5.12.12～R5.12.15）
情報学委員会、情報学委員会国際サイエンスデータ分科会
【日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）】

（参考資料B）公開シンポジウム開催（2/2）

「原子力総合シンポジウム2023」（R6.1.22）
総合工学委員会、総合工学委員会原子力安全に関する分科会
【日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）】

「第9回理論応用力学シンポジウム」（R6.3.15）
機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会
【日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）】

「令和6年能登半島地震3ヶ月報告会」（R6.3.25）
防災減災学術連携委員会
【オンライン開催】

「第18回防災減災連携シンポジウム 「人口減少社会と防災減災」」（R6.3.25）
防災減災学術連携委員会
【オンライン開催】

（参考資料C）理学・工学系学協会連絡協議会

令和6年3月25日　10:00～12:00　オンライン開催

○会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会「中間報告」及び「日本学術会議の法人化に向けて」について」について説明
○日本学術会議の現状と今後の方針についての意見交換
○日本学術会議と学協会の連携等について意見交換

理学・工学系学協会連絡協議会(82学協会)
日本学術会議第三部拡大役員会の下に、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題（新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等）、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた 。

第1回　平成22年4月23日（金）13:30～15:30
第2回　平成23年7月29日（金）13:30～15:30
第3回　平成24年5月18日（金）14:00～16:00
第4回　平成25年2月22日（金）10:00～12:00
第5回　平成26年6月25日（水）13:30～15:00
第6回　平成28年6月24日（金）10:00～12:00
第7回　平成29年8月31日（木）10:00～12:00
第8回　平成30年3月30日（金）10:00～12:00
第9回　平成31年3月28日（木）10:00～12:00
第10回　令和2年8月26日（水）10:00～12:00
第11回　令和2年10月30日（金）13:00～15:20
第12回　令和3年6月24日（木）10:00～12:00
第13回　令和4年3月24日（木）10:00～12:00
第14回　令和5年3月23日（木）9:30～11:30
第15回　令和6年3月25日（月）10:00～12:00

第26期日本学術会議
若手アカデミー活動報告

（2023.12-2024.3）

第26期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー（Young Academy of Japan）は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる45歳未満の研究者で構成

26期の体制と活動（2023.12-2026.9）

1. 具体的な諸問題に取り組む７つの分科会活動
2. 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動・発信
3. 日本学術会議の活動や発信への若手研究者視点の反映

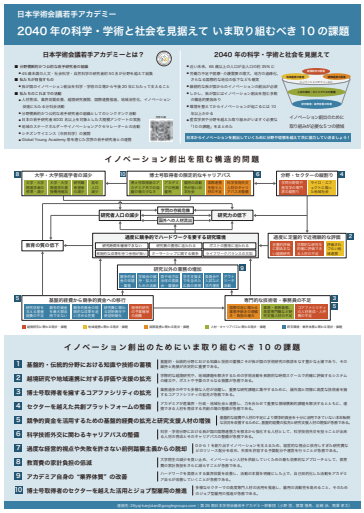
全体委員数：44名

7つの分科会

分科会名	審議事項
学術の未来を担う人材育成分科会	• 学術の次世代を担う若手人材の育成 • 次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策
ワーク・ライフ・バランス分科会	• ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた現状把握と対策 • 女性研究者への過負荷の現状把握と対策
若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会	• 科学分野間の融合に関する調査・議論 • 新たな学術的成果の表現方法に関する調査・議論
国際分科会	• 日本の学術が地球社会において果たすべき役割と国内での活動指針 • 若手アカデミーの国際的活動の推進および連絡調整 • 各研究分野の国際化をめぐる課題 • 科学技術外交、技術移転に関する課題 • グローバルレベルでの公平な知識やアクセスに関する課題
地域社会とアカデミアの連携に関する分科会	• 産官学連携を通じたイノベーション創出の在り方 • イノベーション・エコシステムの創出 • イノベーションを通じた地域創生
未来を拓く学術イノベーション分科会	• 地域社会での科学者の役割の可視化と評価 • 地域活性化に資する公共・民間・学術の連携 • これまでの科学者と地域の連携の検証と今後の連携の展望 • 地域での発展的な研究活動、領域横断的研究
情報発信分科会	• 若手アカデミーのホームページ • 若手アカデミーの情報発信

25期の活動｜見解の発出

見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」



1. 現場の若手研究者のニーズ
2. 分野横断的かつ多角的な議論
3. 網羅的かつ10点に絞る
4. 公式文書として決定版
5. 引用文献やデータも充実

25期の活動｜社会への周知

2023.8.3
毎日新聞

2023.10.3
TBSラジオ

2023.10.25
Nature

※画像は省略

25期の活動｜多様なステークホルダーとの対話・連携

2023.8.8
RA協議会

2023.10.9
日本科学振興協会(JAAS)

その他、文科省，科学技術振興機構(JST)、研究開発戦略センター(CRDS)、社会技術研究開発センター(RISTEX)、工学アカデミー、政策研究大学院大学(GRIPS)、人間文化研究機構、研究基盤協議会、那須地域、広島大学HIRAKU-Global、等

第26期若手アカデミー ビジョン・ミッション

20年後の科学・学術と社会を見据えた リモデリング戦略の実行

未来の科学・学術を担う若手研究者の立場から、行政・産業界・市民社会、そして国内外の研究者コミュニティとのさらなる対話・連携を進め、「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」の解決に向けた具体的な取り組みと、未来のあるべき姿に向けた議論を行います。

活動報告

研究基盤EXPO2024

<<共創の場企画セッション>>

「ONE TEAM 若手が考える研究支援体制」

・開催日：2024年1月26日
・会場：沖縄県立博物館・美術館
・参加人数：361名（現地41名、オンライン320名）

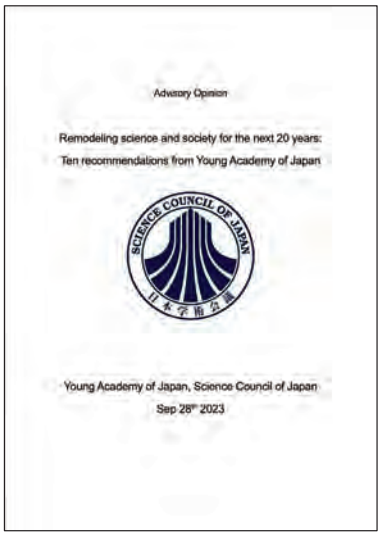
研究者と技術職員、URAがONE TEAMとなることで、研究環境の課題をどのように解決していけるのか、連携することでいかにより良い研究環境を実現しうるのか議論。

今後の活動予定

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024
「持続可能な社会の実現に向けた若手研究者の役割（仮）」

・開催日：2025年2～3月
・会場：日本学術会議

日本学術会議若手アカデミーの10年の活動の区切りとして、また、見解「2040 年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を踏まえて、持続可能な社会の実現に向けた若手研究者の役割について国内外の若手研究者と議論。


Advisory Opinion

Remodeling science and society for the next 20 years:
Ten recommendations from Young Academy of Japan

Young Academy of Japan, Science Council of Japan
Sep 28th 2023

今後の活動予定

国際代表派遣

Global Young Academy総会

・開催日：2024年5月7日～10日
・開催国：アメリカ合衆国・ワシントンD.C.

World Science Forum

・開催日： 2024年11月20～23日
・開催国：ハンガリー・ブダペスト

どうぞ、よろしくお願いいたします。